

委員が中心となり意向を取りまとめ早期策定に繋げる (岐阜県美濃市農業委員会)



事例編

⑤

岐阜・美濃市

岐阜県の中央に位置し、清流・長良川が南北に流れる美濃市。同市は9月末、立花地区で県内初、全国でもトップレベルの速さで地域計画を策定した。スムーズな策定につながったのは、農業委員らが中心となり、昨年からの地区佐ヶ坂集落で地権者の意向を取りまとめ、市外の担い手とマッチングにつながったことが大きい。同市農業委員会と市産業課が協力し、今後、全9地区での策定に向け、地区ごとに協議を進めている。



全国でもいち早く計画策定

農業委員ら中心に意向取りまとめ

立花地区で早期策定のポイントとなった佐ヶ坂集落は4・3畝の水田地帯だ。約60年前に揚水ポンプを設置し、稲作を始めたが、数年前に老朽化でポンプが故障した。耕作者だった4人の平均年齢は80歳と高齢で、獣害

もあったことから、費用面を鑑みて修理を断念。一部でダイコンやサツマイモを作付けるも、休耕地が増えていた。農業委員の岩佐和信さん(80)は「水利組合の組合長だった同級生を中心に集落で草刈りは続け、圃場はきれいに管理していた。先祖が苦労して開墾した土地が荒れる

委員への信頼が集積を円滑に

のはたまらないだろう。なんとかしたかった」と説明する。

市産業課に相談すると、同市内で1畝の入作をしていた隣接する郡上市の法人が農地を広げたい希望を持っていることが判明。岩佐さんを中心に、まず1年、同法人への作業委託をしてはどうかと28軒の地権者を戸別訪問した。全体での説明会も実施し、3・2畝で同意をとりつけた。

今年8月、地権者、農業委員、事務局らが集まり、地域計画策定に向けた説明会を実施。その後、岩佐さんと農業委員の丸茂幸治さん(73)は「機構への集積の同意書を持って、地権者を回った。丸茂さんは「預けるなら、『中途半端に辞めず、長く耕作してほしい』が基本的な地権者の願い。圃場が整備されるのを見て、自分で耕作したいという人も現れた」と笑顔を見せる。

同市産業課と農業委員会事務局を兼任している地域計画策定の担当者は「作物が育ち、圃場がきれいになる様子を住民が見て、集積はさらに進んだ。機構集積協力金の活用も考え、地域計画の策定を進めた」と説明する。

地域計画は9地区で策定を予定。同地区の策定を基に担い手とのマッチングをめざす地区もでてきた。渡辺会長は「耕作放棄地が増える中、先祖代々の土地を守るには信頼される担い手とのマッチングが欠かせない。和紙を筆頭に三つの世界遺産を持つなど市の魅力もアピールし、新規就農者などさまざまな担い手を呼び込めれば」と今後を見据えた。

<ポイント>

○農業委員中心に集落の地権者の意向をとりまとめ、市外の担い手とマッチングにつなげたことで早期策定を実現



今後の打ち合わせをする岩佐さん(左)と渡辺会長

意向は、担い手に任せるか、自分でやるかの2択でまとめ、目標地区の素案を完成。その他の集落は「今後担い手を探す」地区とし、地域計画の策定まで結びつけた。

同市農業委員会の渡辺基成会長(72)は「機構への集積がスムーズだったのは、農業委員への信頼があったからこそ。日頃から密にしている委員間のコミュニケーションを生かし、他地区での策定につなげたい」と意気込む。